

浄瑠璃・時代物

「平家女護島」

◎初演 享保四（二七一九）年八月十二日 竹本座

「俊寛悲劇の見事な展開」

あらすじ

平家討伐の秘密会議に参加した俊寛僧都・平康頼・少将成経の三人は、捕らえられ、九州南端の小島鬼界ヶ島へ流罪になる。俊寛の妻東屋も捕らえられる。平清盛は東屋に引かれ、側室にしようとする。京六条河原では、大仏が獄門にかけられ



たが、大仏の首から文覚が現れ、源氏の大将であった源義朝の白骨を奪って立ち去る（初段）。

成経は、隣の桐島の海女千鳥と恋におち、俊寛を親がわりに婚礼をあげる。島に大船（赦免船）が来て、使者瀬尾太郎は、康頼・成経の赦免を告げる。一人残る俊寛

は泣き悲しむが、平重盛らの意を受けたもう一人の使者が、俊寛を本州まで連れ戻すと伝える。一方、瀬尾は千鳥の同行を許さない。俊寛は、成経と千鳥をあわれみ、そ

の上愛妻東屋の死を告げられ、帰国の望みを絶つ。そして瀬尾を切り殺し、その罪を一身に背負い、一人島に残る決意をする。俊寛は、千鳥を自分のかわりに船に寄せ、遠ざかる船を、岩上で、いつまでも見送る（二段）。

一方、国内では、腰元笛竹ふえたけと姿を変えた牛若うしわかが、源氏再興をめざしていた。備後の敷浜についた千鳥は、法皇を救う。このため平清盛に踏み殺されるが、死骸から出た猛火に、清盛は恐れおののく。清盛は熱病に苦しみ、東屋と千鳥の亡霊に悩まされ、ついにもだえ死ぬ。平家追討の命を受けた文覚は、源頼朝が挙兵する夢を見る（三段・四段・五段）。

見どころ

『平家物語』を題材にした作品。平家の滅亡から源氏興隆まで、虚実とりまぜて描かれています。二段目「鬼界ヶ島」は、『平家物語』や能でも取り上げられ、「足摺あしずり」の名で有名。『平家女護島』では、それらをふまえながらも島の娘千鳥を登場させるなど、新趣向を加えています。一度は許された俊寛が、新しい罪により自主的に残るといふ展開から、独特の俊寛像が生まれました。とはいえ、友を乗せた船が、いよいよ島を離れていくときの俊寛の悲しみは、想像を絶するものがあり、極限状況に置かれた人間の悲劇が、多くの感動を呼びます。現在でも上演の多い時代物であり、海外公演でも好評を得ています。